

教えて! 市立病院

〈第 96 回〉

「心不全について」

■問合せ／市立病院総務課企画財務担当 ☎ 22-2450

〈今月のドクター〉

第一内科 (循環器内科) 長
上北洋徳医師
うえきたひろのり

心臓の病気 (心筋梗塞、心臓肥大、弁膜症、不整脈など) が原因で心臓のポンプ機能が障害され、日常生活を送ることが難しくなる状態を心不全と言います。心不全は、息切れやむくみ、食欲低下などのため多くの場合入院治療が必要で、いったん回復してもまた再発し、だんだん悪くなって命を縮める病気です。

日本では高齢化社会を反映し、心不全患者総数は 120 万人 (2020 年予想)、心不全による

入院患者は毎年 1 万人ずつ増加していると言われ、病院が心不全患者を受け止めきれなくなること、莫大な医療費がかかることなどが危惧されています (心不全パンデミックと表現されます)。

このため、日常生活において心不全の発症をできる限り予防し、心不全になったとしても再発させない対策が重要になります。治療薬の選択や心臓リハビリテーションなどは医療者が主体となって進めますが、治療の成否には患者さんのご協力も重要なポイントとなります。個々の患者さんの状態によりますが、飲水量の制限や塩分制

限、適度な運動の継続、服薬の遵守、禁煙、節酒など日常生活での注意点多くあります。当院ではパンフレットを作成し、入院中から心不全について一緒に勉強します。また、退院後も心不全が重症化する前に医療機関を受診できるように、毎日の症状やむくみの程度、脈拍数などを点数化し、その合計点でいつ受診すべきかの目安としています。詳しくは、当院ホームページの循環器内科の心臓リハビリテーションのページを参照ください。



◀心不全チェックリスト
はこちら